

「えのくま日記」四十九号

平成二十七年七月 〰 平成二十七年九月

「待ちに待った夕涼み会」

後藤 久美子（年中にし組保護者）日記

一学期の終わりに団扇を作り、盆踊りの練習をしていたこともあり、夕涼み会を心待ちにしていました。夏休みに入ると「あと〇〇回寝たら夕涼み会だな」とカウントダウンがはじまり、そして当日は「あとどのくらいで夕方になる？」と何度も確認。十六時頃にはもう待ちくたびれていました。

「盆踊り覚えてる？」と尋ねると「少し忘れたけど、何回も踊るから大丈夫！」と頼もしい返事が返ってきました。昨年は暗がりの中、私と離れるのを不安そうにしていますが、今年は嬉しそうにじ組さんの輪の中に飛び込み、盆踊りをとて元氣よく踊っていました。今年初めての花火を眺めながら、娘の成長を嬉しく思った夕涼み会でした。（七月三十一日）



「秘かな期待」

園長日記

終業式が近づいてきましたが、今、秘かに期待し、楽しみに待っている事があります。それはヒマワリの開花と夕涼み会、そして年長さんの一泊保育です。

子どもたち全員が植えたヒマワリさんが大きく育ち、間もなく開花します。特に最初に植えた年長さんのヒマワリさんたちは、背丈が随分と大きくなりました。終業式の日、子どもたちに開花したヒマワリさんたちを見せることができればと思っています。

夕涼み会に向けて、子どもたちの踊りの練習が続いています。夕涼みの夜、子どもたちの可愛らしい踊りの花が咲き、多くのお客さんたちを魅了してくれるのを楽しみにしています。年長さんの一泊保育、今年は久住の沢水キャンプ場が目的地の一つです。梅雨が終わり、夏空のもと、子どもたちが大自然を満喫して欲しいと願います。

(七月十三日)

「台風十一号 二話」

園長日記



☆一話 「ヒマワリさんの移動」

台風が接近中とのことで、子どもたちが一人ひとり鉢植えのヒマワリさんを園舎内に移しました。自分の名前の書かれた鉢を、落とさないよう大切に運びました。台風で、ヒマワリさんが吹き倒れないようにするためです。結構重い鉢でしたが、一人も落とさずに運べました。子どもたちが自分のヒマワリさんを見る目には優しさが溢れていました。台風の接近が、思わぬ形で、子どもたちの優しさを引き出してくれました。

☆二話 「おべんとう」

年少さんの保育参観の朝、2Fホールで保護者の方に台風接近をお知らせし、終業式が予定通り十七日に行われた場合は、給食はキャンセルしているの「おべんとう」の持参をお願いしました。それまで、実に静かにうなずいてくれていたお母さん達から一斉に声が上がりました。「ギャー!」に近い声に聞こえました。予期せぬことで驚きました。後で理由をお聞きすると、二日続けての「おべんとう」になるので大変だったことでした。一度も人に「おべんとう」を作ってあげたことのない私には、ご苦労の程はなかなか推察できませんでした。

(七月十六日)

「お泊り保育の夜」

山田 恵(年長つき組担任) 日記

七月二十二日・二十三日に年長組は一泊保育を行いました。初めてお泊りする子、去年からドキドキしている子、絶対行きたくない!とお家で言っている(らしい)子、様々だったので、一か月前前から子どもたちのテンションをあげにあげて、当日まで子どもたちと一緒に、楽しみに待ちました。しかし!朝から狙ったようにどしやぶりでとても悔しかったです。計画していたキャンプ場での活動はできませんでしたが、みんなでお泊り!というだけで、子どもたちにとっては大きな大きな挑戦でした。

夜、布団を敷いて、旅館の部屋で子どもたちを寝かせながら、私も一日を振り返り、すつごく楽しかったなあ、と充実感を味わいつつも、やっぱり、「なんで今日に限って雨なんだ・・・!」と思っていると、Mくんがふと、「先生、もっかいお泊りしたいなあ!キャンプ場行けんやっただしなあ!」とつぶやきました。とっても嬉しかったです。それから、恒例の『先生の子どもの頃の話』をしたり、「今頃お母さんはお家で何してるかの予想」を話したりしてほとんどの子がすぐに寝ました。そんな中、数人の子どもたちは、「先生、もう寝たかな?」「明日、何するんかな?」とコンコンコンコン・・・。「早く寝なさい!」というところですが、経験上、このコンコン話がなぜかものすごく、楽しい。しばらく様子をうかがっていましたが、結局すぐにみんな夢の中、でした。

雨が降ったのは本当に残念でしたが、みんなでご飯を食べて、お風呂に入って、お泊りして、私もとっても楽しかったです!保護者の皆様、体調管理や準備、送迎など、ご協力ありがとうございました!

(七月二十四日)

アンパンマンよりも電化製品が気になる息子には、今のところ憧れのヒーロー・職業というものが無いようで、誕生会でどのような将来の夢を語るのか想像できない。

子どもらしくヒーローか、はたまた現実的な職業か。後者を予想しつつ、あえて事前に尋ねることなく当日を楽しみに待った。誕生会にて息子が皆の前で宣言した夢は「サッカー選手」。自分より順番が前だった子の夢を、そのまま拝借するというまさかの結果であった。

「同じもので」と定食を注文するサラリーマンのような対応には苦笑いだが、これもまた社会性を学んだ結果の成長かと嬉しくも思う。帰宅後聞くと、やはりサッカーに興味はないようだ。

（七月二十五日）

「年長さんの一泊保育」特集



☆お母さん先生

大雨となった朝、子どもたちが2Fホールに9グループに分かれて集まった。山田恵先生から子どもたちへ、優しく丁寧な話があった。「みんな力であわせ思い出に残る、楽しい行事にしましょう」。子どもたちは真剣に話を聞き領いた。「一泊保育」に向けモチベーションが高まり、「お母さん先生」の発表となった。グループごとに一人ひとり「お母さん先生」が紹介され、子どもたちは大喜びした。一泊保育と「お母さん先生」との交流の始まりはじまりである。

☆宝探し

恵理奈先生が園長室に宝箱を届けてくれた。白い大きな箱にリボンが結ばれている。中は子どもたちには内緒にしているとのこと。やがて、いくつかのミッシヨン（例、最初に「す」、最後に「こ」の字が付く先生の教室に行き、次のミッシヨンの書かれた手紙を見つける事等。答え「すえだ しょうこ」先生のそら組）を片付けた子どもたちが、最後にたどり着くのが「黒いソファのある部屋」すなわち園長室である。数十人がくまなく園長室を探し、宝箱を見つけ大騒ぎとなる。宝箱を皆で開けると、大きなおおきなスイカが出てきた。

☆昼食

久住の沢水キャンプ場の草原で食べる予定だったお弁当を、お母さん先生達と9グループに分かれて食べた。教室を覗くと、子どもたちがきちんと椅子に座り、実に美味しそうに楽しく食べていた。お母さん達が丹精を込めて作ったお弁当は、いずれも芸術作品のような感じがした。小生、生まれてこのかた、こんなお弁当を食したことはない。お母さん達のご苦労がよくわかった。子どもたちの横で、市販のサンドイッチを食べている若いお母さん先生に「あなた達も、やがて自分の子どもにお弁当を作る時がくるんだよ」と伝えた。

☆露天風呂・大浴場

いよとみ荘の露天風呂・大浴場に子どもたちが、グループ毎に分かれて入った。先生達とバスの先生が、手際よく子どもたちの身体を洗い、シャワーをかけての入浴である。広い浴場で十数人の子どもたちが大歓声を上げた。貸し切りの旅館で、他のお客さんに気兼ねすることなく温泉のお風呂（子どもにとつては温泉プール）を満喫できた。

☆朝の集会

雨にたたられた今回の一泊保育で、唯一、屋外で予定通りできたのが朝の集会であった。「いよとみ荘」から、一列に並び、旅館横に流れる大分川の岸に沿って、約三百メートルの短い距離を湯布院の自然を楽しみながら歩いた。「朝の空気がおいしのが、わかるかい」「川に魚がいるのが見えるかい」など、子どもたちとの会話はとても爽やかで新鮮だった。

☆報告会

お迎えに来て頂いた保護者の方々には勿論のこと、子どもたちにも二日間の一泊保育での様子をもう一度振り返ってもらうため、先生達が写した写真をスライドで紹介した。製作やスイカ割りなど様々な活動の様子、食事風景、お風呂の様子、お母さん先生との交流、子どもたちの寝顔など、スライドの一枚いちまいに思い出が凝縮し、楽しく皆で思い出を

共有できた。準備にあたった先生たち、大変だったけれど、報告会も思い出に残る取組になったよ。

「ヒマワリ 咲いた」

園長日記

夕涼み会を数日後に控えた本日、梅雨が明け夏空が広がりました。待望の夏空です。預かりの子どもがいるだけの、少し寂しさを覚える園庭で二百六十六鉢のヒマワリが一斉に咲き始めました。

五月十五日に年中さんたちが一人一粒ずつ、自分の鉢に種をまいてから時期は少しずつ遅れましたが全ての子どもたちが種をまき、成長を見守ってきました。数えてみると約百本のヒマワリが小ぶりながら可愛い黄色い花を咲かせています。台風襲来の際にはヒマワリが台風で倒れないように、子どもたちが自分達で教室に鉢を運び、守って育てました。子どもたち全員が集まる七月三十一日の夕涼み会には、ほぼ全部のヒマワリさんたちが花を咲かせてくれるはずです。踊りの花、夜空の花火、そして二百六十六鉢のヒマワリの花、どれも楽しみです。

(七月二十九日)

「夕涼み会 大盛況」

園長日記



長雨にたたられた一学期でしたが、梅雨が明け待望の「夕涼み会」を開催することができました。参加人数は、正確に数えたわけではありませんが、園児を含めて約千百人、過去最多となる大盛況となりました。

「夕涼み会」の開始前、台風で実施できなかった一学期終業式を2Fホールでおこないました。「ゆかた」や「甚平さん」姿の可愛い子どもたちに一学期の終わりを伝え、これからの「夕涼み会」や「うんどうかい」の行事でも頑張るように話しました。

「夕涼み会」は、父母の会の皆さん方の出店が大賑わいで長い行列ができましたが、とても楽しくなごやかに対応していただきました。子どもたちの団扇を持った可愛らしい盆踊りは、照明不足で暗く、子どもの顔や姿が確認し辛い状況でした。年々参加者が増えていくなかで、こうした状況に耐えうる照明が必要だと改めて思いました。(七月三十一日)

「セミ&スズメバチ」



園長日記

預かりの子どもたちが「園長せんせい、セミとって」というので、園庭の桜を見上げると数匹のセミがいた。アブラゼミやクマゼミである。セミを捕るのは小学生以来、実に五十年以上が経過している。素手でアブラゼミ、虫捕り網でクマゼミを捕って大ギャラリーとなっていた子どもたちに渡すと大歓声が上がリ、一躍ヒーローになった。

その日の夕刻、今度は自宅の屋根の軒さきに出来た、スズメバチの巢の駆除に立ち会った。一週間前、老母がスズメバチに頭部を数か所刺され、短期入院をした。親の仇打ちを誓い、専用スプレーで対戦したが、なかなか勝てる相手ではなかった。業者の方にお願ひし駆除していただいた。さすがにプロの対応は鮮やかで三十分程で片付けてくれた。人生には色んな日があるものだ、本日は「セミ&スズメバチ」の日であった。(八月六日)

「博美先生 挙式」

園長日記

盛夏の佳き日、博美先生のレンブラントホテルでの結婚披露宴に先生方と一緒に参加させていただきました。百名を超える方々が参加され、盛大な会となりました。

博美先生のご両親が、娘を嫁がせる思いを述べられました。優しい愛情に溢れる言葉に感銘を覚えました。幸せな二人に、多くの祝辞やパフォーマンスが贈られました。最大級の盛り上がりは、今回も園児の歌でした。旧年中クラス「わかば組」の子どもたち、なかには他県に転居していた子どもも駆けつけてくれて、新郎、新婦に歌をプレゼントし、一人ずつお花

を渡しました。幸せな二人は勿論のこと、臨席された全ての方、そしてサブライズで歌を披露してくれた子どもたちにとっても思い出深い披露宴となりました。子どもたちを送迎していただきました旧わかば組の保護者の皆様、ありがとうございます。(八月八日)

「幼児とドーパミン」

園長日記

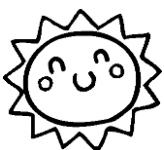
この夏、大分で九州の幼稚園の先生方の研修大会が開かれました。えのくま幼稚園からも園で留守番をしてくれた教頭先生以外の全ての先生が参加しました。千名以上集まった先生達に向けてメディアで大活躍中の脳科学者、茂木 健一郎さんの楽しくて、とてもユニークな講演がありました。

多くの聴衆を引き付けたお話しの中で、最も新鮮で関心を集めたのは「ドーパミン」でした。「人間の脳の発達には前頭葉と呼ばれる部分がかさどっています。その前頭葉の栄養となるのがドーパミンです。このドーパミンは、人が初めて経験する時や知的な好奇心が旺盛な時に前頭葉に送られます。」「幼児期は、最もドーパミンが出る時です、幼稚園の先生や親は、子どもに色々な体験をさせ、子どもの好奇心や驚きに共感し、褒めて認めることが大切です。その時に、子どもたちの前頭葉には、たくさんのドーパミンが送られます。」「えのくま幼稚園の子どもたちの顔を思い浮かべながら、茂木先生の講演をお聞きしました。

(八月十七日)

「預かりの夏」

延長保育日誌より



☆「八月七日(金) 晴れ後くもり」

西野 千香子(預かり延長保育担当)

いつもの様にプール遊び、水が好きなのも少し苦手な子も、楽しくゆつくり遊ぶことができました。少し雲が出て、水からあがった時には寒く感じる子もいたようです。この暑さでも、体調を崩す子もなく、午後も外遊びに元気一杯でした。男の子はセミとり、三輪車、女の子はままごとなどが楽しいようです。暑くて、お茶をいっぱい飲むせいか、時々、腹痛を訴える子がいましたが、トイレに行けば大丈夫でした。

☆「八月十日(月) 晴れ」

工藤 真紀(預かり延長保育担当)

今日からまた一週間がスタート。お盆前という事もあり、月極めのお休みが多かった。今までプールに入りながらなかったS君が嫌がることなくプールに入り、お友だちと楽しそうに遊ぶ姿が見られた。午睡では、年長児の何人かは、ずっと起きていた。おやつ後は、園庭で元気に遊んだ。暑かったが影など涼しい所を見つけて遊んでいた。

☆「八月十二日(水) 雨」

江口 嘉織(預かり延長保育担当)

今日は朝から雨が降っていたので、一日室内で過ごした。また、明日からお盆休みという事で三十四名と少ない人数であった。室内でも広告紙を使った製作遊びをしたり、トランプをしたりして落ち着いて過ごしていた。毎日、戸外で遊んでいたこともあって「雨やんだかな?」「水たまりが大きいな」等と外遊びがしたくて、うずうずしているような姿もうかがえた。明日からお盆休みなので、お昼寝のタオルケット、通園バッグを持ち帰らせています。

☆「八月十八日(火) 晴れ」

照岡 峰子(預かり延長保育担当)

今日はお天気も良くなり、プールに入れる子どもたちは皆、元気に水遊びを楽しんでいた。とびひになっている子どもが四名いて流行っているようだ。にこにこ黒板にて保護者へお知らせしました。午後から園庭で砂遊び、虫取り、三輪車などで元気に走り回る姿が見られた。

☆「八月二十日(木) 晴れ」

浅野 悦子(預かり延長保育担当)

今日はとても天気が良かったので、昨日出来なかったプール遊びが出来ました。水の量が大変多く、少し抜いてみるもの間に合わなかったので、子どもたちには十分気を付け

るよう声を掛け、水遊びをしました。事故のないよう、しっかり見ていましたが、何事もなく皆、水遊びを楽しんでいたのが良かったです。二名、お腹が痛いトイレに何回も行く姿がありました。夏バテ、又は疲れもあるので、気を付けていきたいと思えます。

「思いの詰まったひまわり」

末田 祥子（年中そら組）日記

「末田さーん、朗報一発！」園長室から園長先生の声が聞こえてきました。毎年逃していた「ひまわり」による花いっぱいコンクールに見事入賞したとのこと。市役所からのお知らせを見せてもらうと、コンクールに参加した学校三十二校の中で二番目に良い優良賞をとることができていました。

台風が近付いた時は、「重たい…」と言いながら子どもたち一人ひとりが自分のプランターを室内に運びました。自分で種を蒔いて育てていたひまわりなので、プランターを落とさないように、みんな必死になつて運びました。別日にも、新たに接近していた台風による被害を避けるため、先生たちで二百六十六人全員分のプランターを教室に運んだこともありました。色々な思いが詰まったひまわりだっただけに、入賞の知らせはとても嬉しいものでした。

（八月二十四日）



「ありがとう」

甲斐 美恵子（年長ほし組祖母）日記

今年の夏休みは、一人でおばあちゃんの家にお泊りしてくれました。ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃんのお世話もしてくれました。おじいちゃん二人で、とうもろこしを植えて見事な物を収穫しましたね。六才になるってこんなにもおりこうさんになれるってことなのかと感心しました。

そんな時の誕生日会に思いがけず参加させてもらって、おばあちゃんはすごく感動しました。大ちゃんだけではなく、お友だちみんなが先生の言う事をよく聞いて、きびきびした行動ができていました。毎日毎日の「みか先生達」バスの先生達の努力の積み重ねが今の大大ちゃんやお友だちの姿なんだと思います。泣き虫の孫をここまでして頂いた事に深く感謝いたします。大ちゃん、五才から六才へのすてきな変身を見せてくれてありがとう。

（八月二十六日）

「夏期保育での八月誕生会」

波多野 幸子（副園長・教頭）園日誌より

これまで七月に、七・八月合同の誕生会を実施してきたが、人数が多く長時間となる為、今年度は八月登園日の活動として見直しを図った。

久しぶりの登園と行事で、少し落ち着きのなさはあったが、誕生会の後のおやつ時間もクラスの雰囲気を出すなごやかなひと時となった。夏休みの終わりを感じつつ、二学期の始まりにつなぐ一日となった。みんな日焼けをして、たくましく大きくなっていた。

（八月二十六日）

「想定外の嬉しい一日」

園長日記



久しぶりの登園日の朝、先生たちとの朝の打ち合わせで、誕生会では泣く子や動き回る子の対応をしっかりしようと話合っていました。一学期の誕生会では毎回のようには繰り返されていきましたので、今回もそうした状況になることを想定していました。

園長室から階段を上がり、2Fホールに入って驚きました。先に来ていた年長さんや年中さんたちが体操座りで静かに整列していました。やや遅れて入ってきた年少さんたちも周囲の状況を見て、整列し座り始めました。年長・年中さんに比べると、まだまだ時間はかかりませんが、一学期の姿に比べると随分よくなりました。七月から見ると、どの子も身体が大きく逞しくなり抱え上げると、ずしりと重くなりました。身体も心も逞しく優しい良い子に育っていることが実感でき、想定外の嬉しい一日となりました。

（八月二十六日）

「とつてもきれいなプールで楽しかったよ」

松本 美香（年長ほし組担任） 日記

学園グラウンドの一角に新設された室内温水プール『後藤学園スウィミングプール』のプール開きに、幼稚園を代表して年長組が参加しました。この日は、ごとう幼稚園のお友だちも一緒に両園の園長先生のお話をお聞きし、約束事の確認をした後、これから楽しくプール遊びが出来るようにと、お塩と清酒をまいて安全祈願をしました。

その後は、幼稚園ごとにプール遊びを楽しみました。今までの幼稚園のプールよりも広くなり、子どもたちも大喜び！先生とフープを使って遊んだり、お友だちとどれくらい潜れるようになったか競争をしたりして、約30分のプール遊びを思いきり楽しみました。短い時間でしたが、子どもたちの夏の思い出の一つになったのではないかと思います。

これから、新しいプールを大切に使い、楽しくプール遊びをしていきたいと思えます。

（八月二十七日）



「久しぶりのなぎさ組」

内藤 紀央（年長なぎさ組担任） 日記

夏休みも終盤になり、夏期保育が2日間ありました。1日目はお誕生日会があり、2日目は、年長児だけではありませんでしたが「ごとう幼稚園」と合同で温水プール開きがありました。久しぶりに幼稚園へ登園してくる子どもたちは、日にやけていたり、少し身長が伸びている？と感じる子もいました。私が「おはようー！」と腕を広げて待っていると、「きおせんせー！おはようー！」と、元氣よく抱きついてきてくれた時はとても感動しました。日常のふれあいではあるものの、久しぶりに会うだけでこんなにも温かい気持ちになれるのかと思えました。お友だちに対する挨拶もとても元氣がよく、朝や帰りの歌もとても明るく楽しそうだった子どもたち。新学期もこのような雰囲気大切にしていきたいと改めて思うことができました。

（八月二十七日）

「おとなのは」

原田 恵子（年長つき組保護者） 日記

夏休み終盤、六才の誕生日を迎えた長男。その翌日「歯がいたい！」と訴えてきました。見ると、下の前歯がグラグラしており、生え変わりが近いようです。しかし、注射はもちろんピンセットを見ただけで逃げ回り、小さな切り傷でも「ばんそうこうはる！」と騒いでしまう痛みに弱い息子。

大騒ぎの場面がふと頭の中をよぎりましたが、今回はなんだかいつもと違う様子。周りのお友達も徐々に経験しているらしく、彼らへの憧れもあるようで「おとなのはになるんよ！」と意外にも嬉しそうにしています。「おせんべいたべたらぬけるかな？」「ママ、スルメのかわたいやつかかってきてよ！」と毎日、なにかしらチャレンジしているようです。きつと、あっけなくポロリと抜けてしまうのだけど、彼は「その日」を心待ちにしています。怖がりな息子の成長がチラッと見えた出来事でした。

（八月三十日）



「ひまわりにバイバイ」

波多野 幸子（副園長・教頭） 日記

今年の夏は、子どもたちのひまわりが園庭いっぱい咲き揃いました。七月の終わりごろ、種を提供してくれた市役所の方が写真撮りに来られるとのことで、職員室前に鉢を集合させると一気にひまわり畑の出現。「おお今年は賞をもらえるかも…」と、心ひそかに願いました。

（後日、この願いは叶いました！）

翌日、このひまわり畑に『にこにこ』のKくん（年少）が三輪車でキコキコやってきました。職員室の窓から何気なく眺めていると、Kくんがふと足を止め、数秒ひまわりをじっと見たあと「バイバイ」と手を振り、何事もなかったかのようにまたキコキコと通り過ぎていきました。まぶしい夏の日差しの中、すくっと立ち並んだひまわりたちが、Kくんには微笑んでいるように見えたのかもしれない。飾らない自然な子どもたちの姿に遭遇するたび、なんだか得した気分になります。今年の夏一番の忘れられない光景です。

（八月三十一日）

えのくま幼稚園では、多いか少ないか毎週一度、お弁当日があります。親にとつては小さな箱に何を詰めるか、毎回悩むところ。我が家ではそれに加え、好き嫌いの多い娘のチェックが入ります。中身を見ては、いるやいないやら。野菜は給食で頑張るからと、基本、入る余地なし！ あれこれ言いながら、やっと蓋が閉じられ通園バッグへと納まります。

朝の慌ただしい時間のやり取りではありますが、これもまた、私と娘の大事なコミュニケーションションだと思い、なかなか楽しんでやっています。「好きなもの」だけを詰め込んだ一学期も終わり、さあ二学期です。私にも野望があり、年中さんの終わりまでには、あと三つくらい苦手を克服させたいもの。大丈夫。普段は口に運べない物でも、この小さな箱に入れてしまえば不思議と空っぽにしてしまう力があることを、母はお兄ちゃんに経験済みなのです。

（九月一日）



「夏休みの思い出話」

庄 恵理奈（年中にし組担任） 日記

いよいよ二学期が始まり、久しぶりに子どもたちにも会いえました。登園して来るなり、子どもたちに教室の中で囲まれ、「先生！カレンダー見て！」とみんなそれぞれマシンガントーク。私の耳は二つしかありませんが、子どもたちの活き活きしながら思い出を話す姿がとっても可愛らしくて、ついついみんなで立ち話をしてしまいました。これからゆっくりカレンダーを見ながら、一人ひとりの子どもに、楽しかった夏休みの思い出を二つの耳でしっかり聞きたいと思います。

（九月一日）

「2学期スタート」

梶間 菜摘（年少ゆき組担任） 日記

長かった夏休みも終わり、2学期がスタートしました。どんな姿で登園してくるか、少し不安な気持ちもありましたが、私の心配を吹き飛ばすかのように元気に登園してきてくれました。おはようと挨拶をすると、「菜摘先生おはよう！」と笑顔で駆け寄ってくる子や、少し恥ずかしそうにうつむきながらも挨拶をしてくる子、様々な反応を見せてくれました。久しぶりに会った子どもたちの表情はどことなく凛々しく、体も大きくなったなあと成長ぶりを感ずりました。始業式では整列が上手だと園長先生に褒められて自慢気な顔。しかしお部屋に戻って「園長先生が褒めてくれたね！ゆき組さんかっこよかったですよ！」と言うと、みんな照れ笑いで恥ずかしそうな姿に思わず笑顔になりました。2学期からは新しいお友だちが一人増え、今まで以上に元気なゆき組さんになりそうです。

（九月一日）

「雨の始業式」

園長日記



園庭をリニューアルして子どもたちを迎えた始業式の朝は、あいにくの雨だった。2Fホールで子どもたちを待っていたが、最初に入場した年長ほし組と、次に入場した年少ゆき組の整列や態度がとても良かったので、全員が集まった際に、二クラスの子どもたちを褒めて、実際に整列をやらしてもらった。年長さんが良く出来るのは、承知の事であったが、見事な整列の態度に感嘆の声が上がった。それ以上に、子どもたちや先生達を驚かせたのは年少ゆき組であった。可愛らしい、年少さんらしい整列であった。「年少さんは、年長さんや年中さんを見ながら良くなっていくんだよ、みんな頑張れよ」と伝えた。

始業式では、各クラスの代表が、全園児の前で夏休みの体験発表をした。いよいよ二学期のスタートである。

年少ひかり組Kくん・いろいろな色の花火を見て楽しかったです。

年少はな組Mちゃん・ハーモニーランドやプールで遊びました。ラジオ体操をしました。

年少ゆき組Hくん・パパとママと弟でホテルにいきました。ばあちゃんから飛行機をも

らいました。

年少みどり組Mちゃん・キティちゃんの花火や夕涼み会の盆踊りが楽しかったです。年中にじ組NNくん・かぶと虫をパパと捕りに行きました。おはしやお皿、ご飯を並べるお手伝いをしました。

年中ことりMちゃん・スペースワールドに行きました。プールで水着で遊びました。年中そら組Yくん・杉の井ホテルにパパとママ、弟と家族で行きました。夜には窓からキラキラの光が見えました。

年長つき組Rちゃん・忍者屋敷に行つてボールハウスに入ったのが楽しかった。年長なぎさ組Kくん・虫やカニ、エビ、ドンコをつかまえました。

年長ほし組Kちゃん・五島列島のおじいちゃん、おばあちゃんの所へ船に乗って行きました。マックアドベンチャーでハンバーガーを作りました。

(九月一日)

『9月1日の子どもたち』

武生 香里 (年少はな組担任 日記)

9月1日(火)から、2学期がスタートしました。久しぶりの登園に、ちよつぱり緊張気味の子ども、久しぶりの友だちとの再会におおはしやぎな子ども、涙を流すなど不安定な子ども・と様々な姿が見られました。しかしながら、どの子どもにも共通していたのは、夏休みの出来事や思い出を嬉しそうに伝えてくれたことでした。話したいことがたくさんあるようで、自分なりの言葉で、口々に、お話をしてくる姿がとても可愛いらしかったです。それぞれ、お家の方と一緒に楽しい夏を過ごした子どもたち。これから始まる2学期の中では、教師や友だちと一緒にたくさん楽しい経験をしていけたらと思います。

(九月一日)

「グループ発表」

岩武 まどか (年少みどり組担任 日記)

2学期が始まり、グループが新しくなりました。「今日、グループ発表するんでな！楽しみ！」「カルピスグループかプリキュアグループがいいなあ」とグループ発表を楽しみにしていた子どもたち。「野菜の名前のグループにしたよ」と言うと「えー」と子どもたちから素直な返答がかえつてきましたが、「どんな野菜があるかな？」と聞くと、たくさん野菜の名前が出てきました。「山芋！」と答えが出てきた時は驚きました。野菜嫌いな子が多いみどり組さん。元気な体を作つて欲しいと思い、野菜をテーマにしたグループ名にしました。これを機に少しでも野菜に親しんでもらいたいと思います。

(九月二日)

「運動会に向けて」

松本 美香 (年長ほし組担任) 日記



2学期が始まり、いよいよ運動会に向けての練習が始まります。鼓隊や組体操など年長組全員で気持ちを一つに頑張る競技と、クラスのみなどで力を合わせて行うクラス対抗リレーが年長さんならではの競技となっています。クラス対抗リレーはまだまだ走る方向が分からなかったり、自分が走るのに一生懸命になっている子どもが多いので、これから「みんなが一番になるう！」という気持ちを持って練習に取り組んでほしいと思います。

今年の年長さんは、九十二名と人数も多いので、どの競技も盛り上がるのではないかと思えます。子どもたちと一緒に私たち担任も頑張りたいと思います。格好良い年長さんの姿を見せてくれると期待しています！

(九月三日)

「それぞれの思い出」

宮本 博美 (年中ことり組担任) 日記

長い長い夏休みを終え、心配していた涙は殆ど見られず元気に子どもたちが登園して来ました。約一か月半の夏休みの間に沢山の思い出や体験が出来たようで、登園すると夏のカレンダーを嬉しそうに持って来て、「先生、見て見て！〇〇に行ったんで」とそれぞれの思い出話をしてくれました。始業式の後も、クラスで夏休みの体験発表を一人ずつ行いましたが、

大きな声で「〇〇をした事が楽しかったです」と発表する事が出来ました。キャンプや花火、旅行にテーマパークと、それぞれが夏の思い出と共に少し成長したようにも感じました。ちょっぴり遅しくなった子どもたちと二期期も楽しい日々を過ごしていきたいなと思います。

(九月三日)



「たった1ヶ月で」

塩月 香菜子 (年少ひかり組担任) 日記

子どもたちに久々に会えると、楽しみにしていた夏季保育や始業式。「おはよう！」と声をかけると、恥ずかしいのか、ニヤツと笑って私から顔を背ける子、「おはよう」よりも先に、話したいことがたくさんある子、目が合うとニコッと笑う子など様々な反応が見られて微笑ましく始まりました。先日行われたグループ変えでは、子どもたちの中から「グループ表作りで」みんな協力して(色を)塗ろうよ」という声が聞こえ、たった1か月の夏休みで心身ともに成長しているなど感動しました。

(九月三日)

「観察実習の3日間」

櫻井 萌 (麻生医療福祉専門学校福岡校こども未来学科一年) 日記

私は福岡の専門学校に通っています。初めての幼稚園実習を母園であるえのくま幼稚園でさせていただけでありがたく思っています。実習では貴重な経験を沢山させて頂きました。プチドーナツクラブや、はな組さんで手遊びをしたり、朝礼・終礼に参加させて頂いたり、えのくま日記を書かせていただき普段経験しないようなことをして色んな事を学びました。実習で学んだことを私の財産にして、今後の活動につないでいきたいと思っています。

私自身のえのくま幼稚園での思い出は、夕涼み会、発表会、卒園式です。夕涼み会では友達と一日中一緒にいることができ楽しかったです。発表会では、私が年長の時に記念館ができ、そこで初めて発表会を行ったことを鮮明に覚えています。卒園式では記念館での初の卒園式でもありました。竹馬で入退場した初めての学年でした。初めて尽くしだったので今でも忘れられず楽しい思い出になっています。卒園して十五年ぶりに会ったさっちゃん先生は、私がこの園児だった頃から何も変わらず懐かしい気持ちになりました。えのくま幼稚園の実習は懐かしさに浸りながらも、貴重な経験ができた3日間でした。ありがとうございました。

(九月四日)

「兄弟でこんなに違う！」



高木 麻衣 (年少はな組保護者) 日記

長男が卒園したえのくま幼稚園に、次男が入園し半年がたとうとしています。初めて私と離れての集団生活、給食、バス登園。下の子なのでたくさん不安がありました。私の心配をよそにみるみる成長して、沢山吸収して幼稚園生活を楽しんでいるのが伝わってきます。家に帰ると習ってきた歌や「手遊び歌」を熱唱しています♪これは長男にはなかったことで、兄弟でもこんなに違うのかとびっくりしました。と思えば同じ給食でつまずき「兄弟でそんなこと似なくていいよー！」と言うこともあったり。長男の時を懐かしく思い出しながら、次男の未知の世界の成長を楽しみにしたいと思えます。私自身も初めて役員をさせていただきます、今まで知らなかった裏方を知ることができ、たくさんのお母さん達と交流し楽しく活動させてもらっています。二期期は運動会やえのくま幼稚園祭りもあります。親子で力を合わせて盛り上がっていきましょー！

(九月五日)

